

天
文
星
宿
記



第十回期主将

清水 千佐子

この主将としてこの
一年間はとも長く
短いものでした。
主将に任命された時
その責任の重さを深
く感じ不安ばかりが
つのるまま合宿に入
てきました。しかし
すべての時間を自分
が主将であるという
自覚をして皆の安全

とし、スに向って頑
張るといふことのみに
かけられ、まきまきし
た。頭の中はうらぶ
の事、でいっぱい、でし
た。しかしこの一年
自分の信念に向って
進んできたので、け
して後悔を残す所は
ありません。
私はヨット部員と
してヨットに乗るこ
とだけでなく、部を

通トでの人間関係、
そしてヨツトに乗ら
ない時ニそ本当の東
経大ヨツト部員であ
ることを強調してき
たつもりです。

後輩たちのさまざ
まな顔が今も浮かん
できます。後輩たち
の励ましと協力がな
かったなら無事につ
とめる事はできなか
ったと思います。本

当に感謝しています。
責任^つつ^つつ^つ忍^耐
おもいやり^つこの四
つの言葉は本当にこ
れからも皆にからだ
全体で感じとつてほ
しいと思います。何
事があつても自分に
負けず、この人間関
係だけは切り捨てな
いでほしい。
しいものはすばら
しいものです。しへス

に勝つこと、これは目録
の合宿生活、そして学校での
活動すべてが結果となって
現われてくるものであると思
います。ほんとうに安全面
には十分注意し頑張っ
て欲しいと思います。

この一年いろいろな事を経
験しました。そして013の
方々からのあたたかい御支援
に深く感謝したいと思います。

私の大学生生活をふりかえって

四年 丸山以久子

大学に入学してヨット部の先輩に勧誘され
たのは、入学して間もない事だったのをばっきり
覚えてゐる。そして今、この大学をいや、大
学生活を終えようとしてゐる私です。大学
時代の思い出は、苦しいにつけ、楽しいに
つけ、涙山あります。やはり、ヨット部の
中での思い出を取ってしまつた。何も残
らなうと思ひます。特に四年生が私の代で
は、二人、それも女子が二人という事で、
三年生から四年にかけては、ただがむしや
うにクラブのため、一生懸命にやつてきた
だけでした。私の場合は、実際には、ヨット

に乗るといふ事は、あまりできませんでしたが、事故もなく、無事にクラブも終える事ができて、本当にうれしく思います。これもOBの方々の御支援のおかげであると深く感謝しております。私はクラブにとっでこれだけの事をしたのだらうかと考えてみると、私なりにせいといっぱいやった。とだけしか言えない。でもこの貴重な生活は何物にも変えがたいものであり、私自身の大きな自信にもなっています。人生の中で、このような事は二度とやれる事ではありません。とかく、なんとなく過ぎてしまいがちな、学生生活において、一つの事に向かっで人間同志が力を合わせて、苦勞しあったりぶつかったりしていく

のは、なかなかできない事だと思っ
人間として、常に、自分自身を
生きていきたいと思う。この四年
だけで、精神的に成長したかは、
これから、社会的に成長したかは、
クラブにおける生活が、私の大き
なると思う。最後に、私にとっ
ないかわい、後輩達、これか
ていく中で、色々、苦しい事、
ぶつかると思っ、自分とい
かり見つけて、かんばつてク
いと思っ。

4年間を振り返って

4年

清水千佐子

もう卒業です。

ほんとうにいろいろな事がありました。
今となっては、苦しさも、楽しさも、すべて思
出です。一年の時は、新しい生活への興味と
不安、そして同輩、先輩……といったもので終りま
した。しかしこの一年が四年間の中で一番長
かった様に思っています。

その後、ただ、ただ、あっという間に過ぎた気
がします。そして最後の一年は、私にとって、は
自分というものをほんとうに成長させる事が
でき、これからの人生の中で、今まで以上に、自
分を生かせる、生かしていかうと思えます。

そいつクラブをやり通すことは、なかなかきびしいことだと思えます。しかし自分が一度飛び込んだ以上は、好きで入った以上、その中で楽しさ以上に苦しさが大きな割合を占めるはずなんです。そんな当然であると思うし、自分自身の信念がはっきりにしていれば何事もできるはずなんです。

何かをしようとする時、よくはってはいけません。でもそこに飛び込んだ以上、それを捨ててしまふことは、すべての挫折であると思います。

クラブの良さは、もちろんヨットを通じ、自然を知り、そしてレースを経験することにあります。しかしそれ以上に人間関係であると思えます。

ます。それはクラブに入っ
ていなければ経験できないこ
とです。悩んだりつらかったら
先輩に先輩のBに相談
すればいいのです。そして
そこから何かが生まれる
成長していくと思います。目
先の事はわかりにくく、
長い長い目で見ていくことが
大切であると思うのです。
苦しんで、あとになれば
楽しい思い出になっ
てしまう
もの

今目をとじると、頭の中に浮かぶのは、
荒崎の海と燈
台と寒い寒い海、暖かい日差し
ほんとうにこれらの思い出がある
だけで幸福です。
これから、これらの思い出を大切
にして生きていこうと思
います。

〱四年生の卒業にあたって〱

主将 田久保篤

四年生の先輩方、ほんとうにありがとうございました。ありがとうござい
ました。今の私が主将として引き継いで以来、
就職でいそがしい中、暇をつくっては、毎回合
肩に来て頂きまして、どうもありかとうござい
ます。いっつも御世話になっに事、感謝の言葉
では、言い表せないくらいです。先非車方、
本当にありかとうございしました。四年間
本当に御苦勞様でした。

感謝を込めて

四年生八

二年間を振り返って

二年 伊藤 慎一郎

はやいもので私がクラブに入って二年もた
ってしまった。その間、アルコールに対す
る抵抗力もついてきました。やはりもつと
もつと、お酒を飲める様にした。と思っています。

以上

今年こそ結婚しようと思っています。
今年こそ全日本に出ようと思っています。

イシタ !!

村瀬 靖人
橋本 左内
松浦 啓

四年生のみねさんどうもありがとうございました。

青春

教授 大竹 勝

先日久し振りに羽草君と
 中っくり語る機会があった
 「その時の話から人間は
 青春を大切に、して、年を
 とってからも、それを失っ
 てしまつてはならないとい
 うことになつた」
 思えば、ヨットも諸君に
 とつては青春のシンボルで
 ある。ヨット部の部員は
 老人になつてからでもど
 こか青春の雰囲気を見わな
 い紳士でありたいものであ
 る

まして現役の諸君は青春

を謳歌する若い部員で

あるヨットは外国に行つても
 人々の羨むスポーツであ
 ることを心のなかでかみし
 めて、十分苦難に耐えて
 大学生生活の中で若き日の記
 念となる実力を養い、一歩
 一歩成績をあげてもらいた
 いものだ。青春を失
 わぬグループの一員として。

「ヨットの魅力とは？」

沈の魅力とは

一年 眞壁 仁

ヨット 魅力は波の間に
く 浮かびつつ海水に濡れ
ながら帆を操つるいわゆる
乗っているといつ実感が味
わえることである。そして
我々が乗っている470級
はとりわけスピーディーな
海のオートバイであろう。
シートをたぐり寄せる。す
るとボン!! 帆が風をはらみ
艇はそれ自体が生き物のよ
うに波の上を滑り始める。
そして夏の輝かしい太陽の
下で水平線の彼方の世界を
独占するかのやうに羽ばた

く帆影—— 私はそんなセ

ーリングをしていて時の何
んともいえない爽快さが大
好きであります。そんなあほ
な)しかしその真実は——
ヨットの魅力は波の間にく
に浮びつつ海水に侵りなが
ら艇を操つるいわゆる沈し
ているという実感を味わえ
ることである。そして我々
の乗っている470級はと
りわけスピーディーな海の
きちかいいマシンであろう。
シートをたぐり寄せる。す
るとザボン!! 帆が水をは
らみ艇はそれ自体が潜水艦
の様に波の下を探索し始め
る。そして夏の輝かしい

太陽の下で水面線の彼方の
世界を独占するかのうちに
浮かび沈影。私はそ
んな沈をしているときは何
人ともいえない不愉快さが
大嫌いだ。ヨットと
は「ヨットの魅力」沈の
魅力が指し示す通り自然
が相手であるためかなりの
体力のいるスポーツである
し、また、生命の危険もあ
り冒険でもあると思う。

私と海

一年

酒井亮一

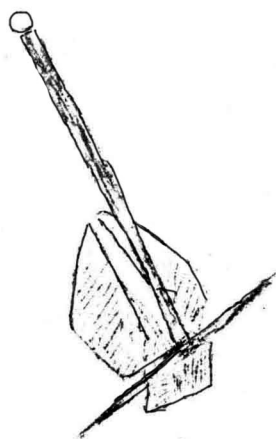
海はすじいと思ふ。果
てしてもなく大きくて深い。
人類が月や火星へその文明
を送り込んでも ただ一つ
海は地球上で優しく深く私
を見つめ、人類から神秘の
ベールにつつまれのひっそり
とそして時には激しく生き
ている。私はそんな海がと
ても好きだ。海は地球上に
残されたただ一つの冒険か
でさるところだと思ふ。陸
から眺める海もヨットでセ
ーリングがする海も大好きだ。
だからもつと海のことをい
ろいろ知りたい。海のこと
いい

ろいろな顔を見たいと思ふ。
又海を知るのに海に對
して恥ずかしくないよ。な
人間に成りたい。一生涯か
かっても成れない気が多分
にすけるけれども

ぢ・えんど

追伸

来年度こそかわいい女子
マネージャーが欲しい。
いしたい。



嗚呼。ヨット部 (VOL I & VOL II 合併号)

二年 松浦 啓

五十三年夏のシリーズンオ
フの宿題として、『風見』の原
稿が言い渡されたが、前回
の『風見』において私の原稿は
何故かボツにされてしまつ
たので今回は多少一年生の
頃を振り返つて書を綴つて
いきたいと思ひます

高校を卒業した頃の私は
東京へ行けば都会の絵具に
染つてチヤラチヤラ遊ぶこ
とがでさると思ひ、胸を踊
らせて上京してきましてが、
入学式の日に某先輩特名を
秋運にハント(?)された私は
ヨット部の一員となつてし

まい、毎週金土日合宿
いう若干信じがたいような
生活を送つてきました。合
宿中はごくたまに楽しいこ
ともあります。大半はフ
ウいことばかりでした。私
の同輩は十一人いました。二
月末には私を含めてまた
つたの四人、三月頃の合宿
は合計七人にて行ない。今ま
で合宿は大勢でやるものだ
と思つていた私は面喰うつ
てしまい、真剣に合宿脱走
を考えたものでした。クラ
ブ内における種々の難問を
かかえて四月に入ると自分
達の後輩にあたる一年生が
入部してきました。そして

四月末からゴールデンウィークにかけて行なわれた関東学生ヨット選手権大会、私はJ/440のクルーとして初めてレースに参加しました。レース前に泳いで待機している時の気分は、おそろしく新婚初夜を迎える新婚夫婦よりも希望と不安に満ちたものであった。でしよ(悪い例ですがあしからず)レース終了後にハーネスをはずす時の気分はまさにFEEEL SO GOOD。ク一言につきました。

五月の中頃よりスキップ練習を始め、ヨット教室の期間にはインストラクター

とって活動してきまして、まだまだ一人前にテイクアップをあげつることはできません。今後何としてまともなスキップパーにならなければならぬと思っております。又今年より会計としました。私は当然金銭管理をしなければならぬので、数字に弱くて困っている私には誠にやっかいな仕事です。でもしっかりがんばっていきましょう。

YACHT、考えてみれば何とも魅力的なスポーツである。とにかく今思っていることはDO THE BEST!

風見の原稿

一年 増田 隆

私が、ヨット部に入部して半年が過ぎようとしています。まだごく一部ですが、ヨットにも慣れ、クラブの雰囲気も分かっています。練習では、困惑することが多々、先輩に指導を受けながら、なんとかのりこえています。辛いことも何度かありました。でもその都度支えてくれたのが、先輩のやさしさと、同輩の思遣りでした。ヨットに乗っていい時は、苦しいことが多ければ、陸に上がって、ふ

りがえると、苦しかった事を、早く思える。夕日を見ながら、同輩と、一日の事を語りかえり、話しをする時間をとる。好きだ。今後をも自分なりに努力し、クラブの一員として活動したい。と思います。

ヨット部に入って

一年 岡 志史雄

ヨット部に入ってから半年は、僕にとつて非常に早く過ぎてしまつた。艦装レースなど何もわからなかつた五月から、どうにかレースに出られる様になつた。今までに得られたものは、ヨットに関する知識もさる事ながら、合宿を通して、部員同士の間関係の協調の大切さなどの発見が物かつた様です。毎週末の寝食を共にしての合宿は、規律や他人の尊重無しにはとてもやめていけないし、とりわけ雑用をする一年同士では、嫌な

事でも自分から進んで仕事をせねば合宿が成り立たない。

毎週、海に行けて艇に乗れば、と思つて入つた。クラブであるが、ヨット部というのは時間的にも金銭的にも負担の大きなクラブである。普通の学生生活では得られない知識や経験を沢山吸収して、いこうと思つた。

海をいってヨット

川端隆二

入学以来海と接する機会が
ひじょうに多くなった。それ
につれてすこしずつ海のこと
がわかってくる。真青なジュー
タンをきつめた穏やかな海、夕
焼けに染まるオレンジ畑、静
かな息をたえずくり返す。ぼ
くに何かを語っている夜の海。
「おれにむかっているのかな。
静かな子守唄を聞いていると
色々楽しいこと、ちよっぴり
悲しいことなどを思い出させ
考えさせ

せてくれる。また何かも忘れ
させられることもある。こんな
ところには海のとてつもない
やさしさがある。また風が吹
きうねりがおこり、なにもか
のみこみそうなききもある。
人間にいろいろな顔があるよ
うに、このような海と接する
われわれヨットマンはほん
とくに「あわせだ」と思う。
ヨットに乗るまでの準備が
たいへんであるが、セーリ
ングしているときはさわやか
さ一杯である。またこのクラ
ブには、いって多くの友人や
先輩やOBの方々もでき、大
学生生活もきつと充実した
ものになるとぼくは思う。

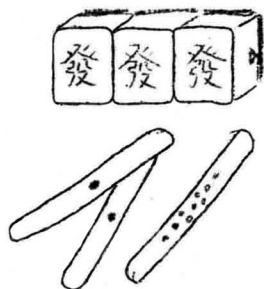
麻雀について

今井 寛

現在ヨット部で麻雀をや
る人は一応八人いる。それ
では一人ずつ打ち方を分析
してみたい。
三年生は田久保さんだけ
であるが、田久保さんは変
に場を荒したりしないし定
石もよく知っていると思っ
たのだが、熱くなりやすいの
で冷静さを失った時無理な
打ち方をし、傷口を広げて
しまふ。
二年生では左内さんと利
瀬さんであるが、左内さん
の場合には必ず安パイを残し
ておくし、かたい面がある

のだが、理想に走りすぎ大
きい手をねらいすぎる所が
あるように思う。しかし、
ひきの強さには驚かされる。
利瀬さんは堅実な麻雀を打
つ人だが、時として人に
させないと言われる。
最後に一年であるが、浅
羽の場合にはまだよくわかっ
ていないようなので、そく
川端も好きなのようだが、ま
だよくわからず、いないよう
だ。たまに勝つ時もある。
図は堅そうに見えるが勝負
の差が大きいのは不思議で
ある。岩倉の麻雀はツキの
麻雀であり波に乗った時は
実に強い。その割に極端に

負けなものは、やはり打ち
方を知っているからだろう。
最後に自分の事であるが、
やはりリツキ麻雀のような気
がする。それと食い急ぎす
る傾向がある。とは言って
みたがやはり現在のヨット
部では右に出る者がいない。
ほぼ完璧な打ち手である事
は誰もが認めるところであ
ろう。



編集後記

今回の風見の刊こうにあたって反省しなげればいけない点がたくさんあると感じます。

まず、時間がなくて現役の事ばかり書いてある点と気を付けなげればなりません。OBの皆様からも原稿を求め、もっとみんなが読んで楽しめるようなものになげればいけない事です。そして、せっかくなので作成するのではなく、今年からはもう少し早めに作成しようと思いました。読者のみなさんどうもすみません。

